

KJSレポート 58-2.

屋根遮熱シート（ヒートストッパー）の施工不備 心配は現実のもの・・・。

前回、KJS レポート 58 で皆さんに発信していた建物の屋根に敷設したアルミ製ヒートストッパー（遮熱シート）の施工不備について調査を行った結果、やはり異種金属接触腐食の現象が認められました。

上段の写真は施工後2年経った状態で、中段と下段の写真が5年を超えたときの状態です。

明らかに鉄製ステーブルの錆びと、その周囲のアルミシートの腐食が見て取れます。ちなみにイオン化傾向の高いほうのアルミシートの腐食だけでなく、鉄製ステーブルのほうも錆びていますが異種金属を接触させた場合、鉄側の錆び腐食が発生することもありますし、この場合は接触している部分の周囲のアルミシートに明らかに接触腐食の影響が出ていることが分かります。特に専門家の方がこの写真をご覧になったら容易に判断できることでしょう。

ちなみに、専門の公的機関に写真分析を依頼したところ、異種金属接触腐食の影響による腐食であることは粗間違いなく、『逆にこの状態（現象）を異種金属接触腐食ではないという方がいらっしゃるのですか』と尋ねられてしまいました。

しかし、K住宅側は『これは、止め付け時にタッカーで打ちつけた時の傷がこのようになったものである』と主張しています。

分かってはいても、高気密・高断熱・高性能住宅を売りにしている建築会社でありながら一般常識すら守らずに300棟程度の施工不備を指摘されているのですから敢えて認めることができないのでしょう。

幸いにも現時点においてこのような状態は数千箇所の一部に留まっていますし、このシートの下には防水用のアスファルトルーフィングが敷設されていますので屋根の防水上の問題は無いものと思われます。そして、この状態が多少広がることがあっても大きな穴になることも考え難いと思われます。ただし、このような状態が今は一部であっても今後屋根全般に広がって



しまう可能性は誰も否定できません。

してはならないということをしていた建築会社の施工不備は、夢を抱いて建築された施主の方の想いに文字通り傷をつけてしまったことになるでしょう。

皆さんは写真のようにになっている状態が**我が家**であった場合どのようにしますか。

以上

注記

以上に記載した事柄は全て事実に基づいて発信しています。これ以上、建築施工不備による被害（瑕疵）を拡大させないようにすることを目的として皆さんに発信しています。利害関係者の方や今後建築を計画中の皆さんからのお問い合わせがあれば、この件に関する詳しい情報の提供をします。